

能登の三珠を訪ねて 渋谷 利雄

日本列島、半島能登路を駆け抜けての半世紀。いつしか能登の風土祭事に取り憑かれ、後ずさりすることなく能登半島にどっぷりはまり神仏にもおだてられての祭り人生。

三方を海に恵まれた古代の表玄関。大陸文化の流入と共に暖流、寒流に自然の恩恵にも恵まれての日々。神話や伝説、ロマンにも心開かせていただく。心温かい人たちにも出会い、祭りから出発、特に祭事のキリコ祭りに熱中し「祭りの国 能登」が生まれ、私の口にもなり、昼夜走り廻った走行距離は地球を何周したことか……。朝夕脇目もふれず羽咋から奥能登路の民家や神社まで……。

一幅の絵、工芸品を観るような光景、キリコの乱舞に取り憑かれた40余年。ライフワークも原風景の夕日、朝日と拡がり次々と幅広くなる。新緑に真赤に染め上げる能登の天花「のとキリシマツツジ」にめぐり逢い、恋のとりこになり20余年、心の癒しを感じ能登人の心根を憶えるように。

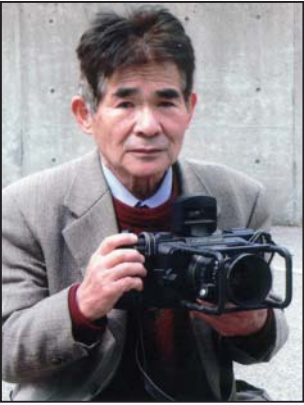
5月、キリシマツツジの発祥の地鹿児島県より「霧島連山稀少植物保全調査会」15人と市職員を交えての一行が訪問されたことに對し嬉しくなる。

昨年、新宿御苑での写真展で東京の時以来の再会。池田会長さんに写真集《のとキリシマツツジ》で紹介された能登のキリシマの写真が今回の来訪に大きく貢献したと語る。一行は池上家で見事なまでの朱赤のツツジに感動し帰路の能登空港に。ロビーでは先ほどの感動がまだ冷めやらぬ力強い握手の中、これからキリシマ保存の上で写真撮影に協力を要請される。改めてキリシマツツジが遺した先人からの天花を再認識し、能登と九州の絆を憶えたとき、写真家冥利に尽きる心境。新

緑と朱赤、心を癒す能登の天花を撮り続ける気持ちも新たに機上の皆さんを見送った。今後、新しい能登半島の**三珠(キリコ・松明・夕日朝日・キリシマツツジ)**を訪ね、生涯現役で駆けずり廻りたいと願う。半島全体が「キリシマツツジの里」として全国にPRしたい。写真展とともに……。



桜井家 珠洲市正院町岡田 (撮影:渋谷利雄氏)



渋谷利雄氏
石川県観光スペシャルガイド
日本写真家協会・三軌会
(羽咋市島出町)

「東京奥能登応援団のホームページ」アドレスは <http://okunoto.net> です。

いらむ アイデンティティ ⑭

珠洲と言えば「珪藻土」
そして忘れられた「石膏」

お年を召した方なら、子どもの頃「七輪」と呼ぶコンロで餅や魚を焼いて食べた経験をおもちであろう。また、カマドと聞けばご飯炊き、味噌作り、餅搗きなどで使われた懐かしい思い出が蘇るのではないだろうか。

コンロやカマドは、江戸の昔から熱の絶縁性に優れた珪藻土で作られ、家庭の生活必需品として重宝がられていた。

やがて、吉岡藤作博士によって、珪藻土は海、湖などに生息した植物性プランクトンの遺骸が永年堆積してできた土であること、及び、調湿性、断熱性、脱臭性等の特質が認められ「イソライト」と命名された。

以後、珪藻土工業が盛んになり、製鉄所の溶鉱炉の断熱材に利用されて、珠洲の耐火断熱レンガは全国の八〇パーセントを占め高度経済成長を下から支えたのであった。因みに、珠洲全域の珪藻土の埋蔵量は四八億五千立方メートル余りと推定され、日本一を誇っている。

ところが、電気・ガスなどの燃料革命によって需用が急激に低下してしまった。今日、この貴重な珠洲地下資源の新たな利用分野を開発する模索が続けられている。

いま一つ、若山に石膏山があったことを知る人が意外と少ないのではなからうか。言うまでもなく石膏はセメント・建築材・彫刻の材料として活用される。若山からケーブルで上戸に運ばれ船積みされていたのである。五〇数年前、飯田高校へ登下校に通り返けると、ガラガラ ガラガラと金属音が自然の空気を破って降ってきた。今は廃棄されて姿はなく、されど珠洲産業文化の先駆けとなった音響であることを記録に留めん。

(押上武文(府中市・宝立町出身))

冬のグルメ能登旅行記

荻野アンナ氏の助手をつとめて3年目になる。口述筆記で文章の技を掴んだり、取材同行で貴重な経験をしたり、日頃から役得の多い仕事とありがたく思っている。今までに運を使い果たしてしまったのでは……という心配は、無用だったらしい。異色のツイテル話が舞い込んできた。

「奥能登モニターツアー」へ参加するチャンス到来である。そもそもアンナ氏が能登を訪れるようになったきっかけは、昨年、地元横浜の銭湯で、絵描きさんが能登半島を描いているところに居合わせ、絵に得意のフタを描き加えたことだった。「フタ描いちゃったから、一度は行かなきゃなあ」そう言いながら、嬉しそうな顔をしていったのが印象的だった。

そうしてアンナ氏が能登を訪ねる旅が実現することになり、私は事前の打ち合わせの中で能登のパンフレットを目にした。なんて綺麗な千枚田だろう。最初に目に入ったのは千枚田。そして世界農業遺産に認定されたという里山里海が魅力的と感じた。

戻ったアンナ氏から能登の天然塩と塩飴、いしるをいただき、土産話に花が咲いた。さらに本誌の連載、新聞掲載用の口述筆記をしながら能登への思いを温めてきた。そしてついに、能登初上陸の日がやってきた。モニターツアーの趣旨は、能登の魅力を外部の目を通して再発見すること。県と奥能登で構成する奥能登ワエルカムプロジェクト推進協議会のツアーで、首都圏から16名が参加した。

そのうち3人が私、夫息子(2歳半)というワケだ。我こそは「ザ・能登」だという観光地を、時間いっぱい回る。能登初体験の私たち家族にピツタリだ。

松波酒造、見附島、須須神社、キリコ会館、輪島の漆塗体験、能登舟などなど。あこがれの千枚田見学もある。



子どもが小さいので、移動がすべてタクシーなのも、ありがたかった。公共機関での移動は、とかく気苦労が絶えない。はじめ二コニコ子どもをあやしたおばさまが、時間の経過とともに表情をこぼらせる、そんな体験を何度もしている。

乗車した能登いろタクシー(宇津津タクシー)の川端運転手は、元ホテルマンという異色の経歴の持ち主で、言葉の端々が丸い。車内でオムツ替えもどろぞ、と声を掛けてくれたのは嬉しかった。観光案内はホテルマン時代も必須だったそうで、何を聞いても応えてくれる、能登博士でもある。

「食べるのは、人生で3度目でせう」彼の知らぬ能登はないと思っ

ていたら、意外な返事が返って

きた。観光タクシー運転手さんですらなかなか口にしないもの、それが「くちこ」だ。訪れたのは森川仁右門商店。店主の森川仁久郎さんは、黒コム長に黒ベスト姿の、海の男だ。

「くちこ」は、ナマコの卵巣。横に渡したタコ糸のようなものに卵巣を吊るす。やってみせてくれた。簡単に吊るしているように見えるが、そう見える時点で素人である。

実際ツルツルしたひも状の卵巣を箸でつまみ、素早く前後から糸をまたぐように吊るすのは、至難の技だ。くるくる巻かれ、間もなく美しい三角形が出来上がった。

「これは一枚500円ですか？」 ついに主婦感覚が出た。何段か干されている中に一列5枚にこだわっているという、特大サイズ(乾く前で手のひら大)のものがある。一枚五千円と聞き、たまげた。

「跡継ぎは？」 ツアー参加者の誰かが聞いた。息子はやらない、跡継ぎはいないという。

「今の日本人にそんな大変なことする人はいない」



ナマコ引きが行われるのは、11月6日から3月末までの寒い時期。80歳過ぎて漁に出る熟練者もいるが、「力ばかり入れても駄目」だという。技の習得も容易くない。一枚5千円のワケが知れた。

奥から出てきたおかみさんが、わざわざ商品のパッケージを開けて「このわた」を試食させてくれた。

ナマコのはらわたの塩辛と聞き、口に運ぶのを躊躇したが、これが実に美味しい。皆で絶賛していると、今度はどこからか一升瓶が現れ、思わぬところで役者が揃った。おいしい日本酒と「このわた」を同時に口にして、さすが日本三大珍味、と頷いた。

昔から変わらぬ伝統の味、なのかと思いきや、違ったりしい。細い竹の節の間に詰めて出荷したのだらうか。

たのは昔の話。今は依頼がなければ竹の代わりに瓶に詰める。竹だとパンパンに詰めても一週間でも2センチくらい縮む。その分だけ塩辛くなる。かつては一升に一合の塩を使ったが、今は6〜7%。昔の配合では塩辛いと返品されてしまったという。

あかなまこ、あおなまこ、くるなまこ

まるで早口言葉のような数種類のナマコの水槽が、作業場の前に並び、フコフコにゆるにゆる独特の触感。触ってもいいですと言われ、恐る恐る手を伸ばす私の横で、息子は肘まで突っ込んでいた。「目も何もないけど、きつと敏感です」

地震ナマズならぬ、地震ナマコ。地震の数日前に教えてくれるなんて、ありがたい。長年ナマコとともに暮らしてきた海の男の言葉である。どこかで活かさないだろうか。

中身の濃い2日間だった。観光誘致には「口コミが一番」とツアー主催者も言っていた。滞在は2日だが、私も勝手に能登応援団になったつもりで、話しまわっている。

「能登の旅、楽しかったよー。タクシー移動だったらず連れもお年寄りもOKだよー。雪遊びもできそうだよー。キリコ、デカイよー。魚美味しいよー。日本酒飲んだくれツアーもできるよー……」

(上村雅代さん)

能登町が流山市と「姉妹都市」締結

1月17日流山市ナブシャルズ日本閣で持木能登町長ら双方の市町の関係者が多数出席して、姉妹都市の盟約を締結し「記念祝賀会」が開催された。

旧内浦町出身・東畑秀雄さん (80歳・江戸川台西在住)



元々東邦酒類に麹師として勤めていた杜氏の父が、内浦町に戻る際、交代で東邦酒類で働いてみないかと言ってきたのがきっかけで、昭和24年、18歳で流山に来ることになりました。

内浦町は雪国で産業も少なかったため、学校を出ると、主に金沢、福井、京都などに職を求めましたが、東邦酒類は当時の大手酒造会社ですし、内浦町出身の中口常務・橋本工場長の兄弟がいたため、東邦酒類で働くため流山に来る人間も多かったと思います。

能登人は、勤勉で辛抱強いが、祭りとなると出ていた人間もみんな帰ってきて、町は若い衆であふれかえるほどの祭り好き。兄の中口常務は、堅実に仕事に厳しい誠実な人。弟の橋本工場長は、仕事では緻密な反面、破天荒で太っ腹、豪快で人の気持ちを掴むのが上手な人でした。どちらも能登人の気質が特徴的に現れている方でした。

私が能登で過ごした少年時代は、戦中・戦後のあまり良い時期ではありませんでしたが、今になって能登の祭りを見せたいと、大勢の人たちを案内しています。

能登町と流山市の姉妹都市締結は私の悲願でもありました。故郷と第二の故郷が、さらに深く永く親交を紡いでいけることを本当に嬉しく思います。

(流山市広報誌記事)

できごと

見附島が取り持つ交流ツアー

1月14日15日、横浜銭湯めぐりの会一行24人が珠洲市を訪れ、あんこう祭りなどを見物した。14日夕宿泊先の宝立町民宿田崎荘で泉谷珠洲市長、今井商工会議所会頭らと懇親、地元の子供達のキャラゲ、キリコ太鼓を楽しんだ。

その「返礼」として2月13日、14日珠洲市見附島観光協会一行6人が上京し、見附島の壁画が画かれた居酒屋を巡った。13日は黒馬能登の夜市で、14日は横浜の居酒屋ごつつあんで交流会を開催した。



能登の夜市では、東京珠洲会笠原英二会長、谷辰夫飯田高校同窓会東京副支部長らが参加した。ごつつあんで、表久雄飯田高校同窓会東京支部長、安田正さいたま市川島人会会長らが参加、中島絵師を囲んで横浜湯めぐり会と懇親を深めた。店内一杯の参加者に対し表正人石川県空港企画課長が能登観光の誘致と能登空港の利用促進を訴えた。



能登町物産展

2月25、26日の両日湯島天神梅祭りで見物人が例年を下回り境内の客足は今一つであったが、物産テナントには能登の特産品や食材を求める客が大勢詰めかけた。

カキのグラタンや漁師料理のいかのイサブが好評で飛ぶように売れ、ふるさと会の常連さんも、即席居酒屋で地酒を楽しんだ。(写真:湯島天神梅祭り)



3月16日~18日 越谷イオンレイクタウン

キリコが展示され『東京で能登のまつりをやるう会』がキリコ太鼓を演じた。



世界農業遺産・能登の里山里海フェア

ふるさと行事

- 4月11日(水)~17日(火) そごう千葉店
- 4月14日(土) 午後4時 加賀百万石の物産展
- 赤坂四川飯店
- 5月3日(水) 第3回ふるさと会連絡会
- 5月3日(水) 東京国際フォーラム オークストラ・アンサンブル金沢
- 「熱狂の日」音楽祭2012
- 5月3日(水)~5日(土) 能登空港のキリシマツツジ・フェスティバル

能登キリコ祭り~担ぎ手募集!

能登キリコ祭り in 荏原町商店会~東京 DEMAE 能登半島~

【運行】キリコ担ぎ出し
4月7日(土) 13:00 16:30 18:00 (8:00~組みたて)
4月8日(日) 11:00 13:00 15:00 (16:00~解体)

手伝ってね!

※本イベントは、品川区荏原町商店会などで通年行事として行われます。7月28日、29日、二葉中央商店街品川納涼祭でもキリコが出ます!

東京 DEMAE 能登半島・オープニングイベント
能登キリコ祭り in 品川区荏原町商店街
4.7 ± 4.8 日

荏原商店街へのアクセス
● 東急大井町線「荏原町駅」下車

イベントスケジュール
4.7 ±
11:00~
● 交流舞台村オープン
● キリコ組立て展示
13:00~
● 旗割・振る舞い酒
● キリコ担ぎ出し
● 和太鼓「虎之介」演奏
16:30~
● 和太鼓「虎之介」演奏 (中延商店街・中延会館前)

4.8 日
11:00~
● イベントオープン
● キリコ展示・担ぎ出し
● 和太鼓「虎之介」演奏
※荒天の場合、イベントが中止になることもあります。

能登空港 羽田空港
「世界農業遺産」に認定された能登半島まで羽田空港から能登空港まで飛行機で60分!

がんばれ日本!

頑張る奥能登人

◎河西敏夫さん

(珠洲市上戸町出身・70歳)



【経歴】

18歳で東京、料理の道に
日本大学文理学部の学食勤務など
平成元年10月 **とんかつ車** 開店
【メッセージ】

年一回は帰省します。ふるさとはいですねー。

小さな店ですが、お客様には、こつこつのお心でおもてなしています。人気メニューは、とんかつのほかチキンかつ、シヨウガ焼き定食です。

来てくださーい！

【営業時間】

11:00～15:00、18:00～21:00
(日、祭日定休)

とんかつ車 (V2名)

(京王線明大前駅徒歩3分)

世田谷区松原1-38-15

電話 03-5376-3060



みつけたろうくんの紹介

このほど珠洲市のゆるキャラとして誕生しました。

見附島の風貌で、髪に市花の椿、眉の側に大納言小豆、大浜大豆の靴です。可愛がってください。



石川県人会からのお知らせ 「会員カード」会員募集

石川県出身の方、石川県にゆかりのある方を対象とした飲食費など50店舗での割引特典付きのカードです。

有効5年間、発行手数料 500 円

石川県人会 TEL 03-3556-1414



東京珠洲会創立50周年記念総会

4月22日(日) 午後4時から 浅草ビューホテル

会費 男性7,000円 女性6,000円

【お申し込み】

笠原英二会長

TEL/FAX 0471-521-9231

飯田高校同窓会東京支部総会

5月19日(土) 正午から千代田区グランドアーク半蔵門

【連絡先】

表法律事務所

TEL 03-388621-6674



事務局から

明治、昭和に続く平成の大合併の号令で、平成11年から市町村合併が進められ、開始前には全国で三二〇余だった市町村数が本年3月には約一七〇にまで減少しました。街のあり様が変われば行政の在り方が変化するのは当然といえは当然のことで、奥能登でも本年4月1日から警察署の統廃合が実施されることとなりました。

輪島署と穴水署が輪島署と穴水庁舎に、珠洲署と能登署が珠洲署と能登庁舎にそれぞれ統合再編されます。限られた人的資源を効率的に運用し、行政サービスの向上と安全で安心な奥能登の実現に努めていきたいものです。

さらには来年4月からは能登有料道路が無料化される予定です。煩わしく思えたいくつもの料金所が無くなるのは大歓迎ですが速度の出し過ぎには十分注意しましょう。

あの未曾有の大震災から早や一年が経過いたしました。復興のスピードは残念ながら思わしくなく見受けられます。一際寒い冬を避難場所を過ぎられた皆様のご苦労を思うと本当に胸が痛みます。一人ひとりがそれぞれの立場で息の長い支援を続けていきたいものです。(乙丸)

制作

株式会社 警察研修社 TEL. 03-3365-3829